館報 まつかわ

松川町公民館報
第741号
令和７年８月15日

町の川 ⑥⑨ 池の平

80年 遺跡を訪ねて

今年は戦後80年。当時の記憶を伝え、悲惨な戦争を繰り返さないために、節目のこの年に振り返ります。

直接的な戦地になったことがない松川町にも戦争に関わる史跡はあります。今回はその2カ所の史跡から平和を考えます。

元大島防空監視哨

防空監視哨とは、今でいう航空機のレーダーのようなもの。それを人の目と耳によって監視していた施設です。

第二次世界大戦中、日本では全国に1000～1500ほど配置されていたと考えられています。また、長野県内だけでも60カ所以上あったことがわかっています。

そのうちの1つが元大島に配置されていたのです。

《監視哨の任務》

防空監視哨に服務する哨員は、昼夜問わず航空機を監視し、監視隊本部に報告することが任務でした。敵・味方を問わず、時刻・機種・機数・高度・進行方向などを確認して本部に伝えます。そして他の地域に設置された監視哨から同じような報告があれば、その航空機がどちらの方向に向かっているのかがわかるというものです。当時も電波による航空機の監視は行われていましたが、敵か味方かわからず、高度や機数もわからないという未熟なものでした。そのため、目視による監視は重要な任務となっていました。

元大島防空監視哨　実際の遺構（普段はブルーシートで保護されています。）

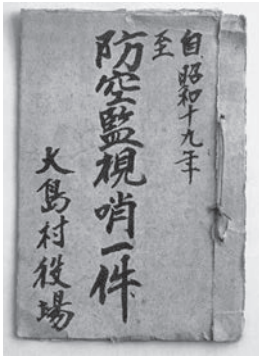
《哨員は十代の若者》

防空監視哨で実際に監視の任務に就いていたのが、今の中学生や高校生にあたる十代の若者だったのです。本来なら青春真っ只中の多感な時期に、防空という重い任務に就いていたのです。真冬の真夜中の任務は、寒さと睡魔で特に大変だったと、実際に服務した方の話もあります。

《当時を知る資料》

戦争に関する資料は、終戦時にほとんどが焼却処分されてしまっています。しかし、松川町には「防空監視哨一件大島村役場」と記された1冊の資料が残されていました。これは、葬り去られた歴史の一部を知るための貴重な資料となっています。

元大島防空監視哨は、戦争中の実態を伝える史跡として松川町指定文化財に登録されています。



戦後49年（平成6年）に発見された元大島防空監視哨の資料

戦後 松川町の戦争

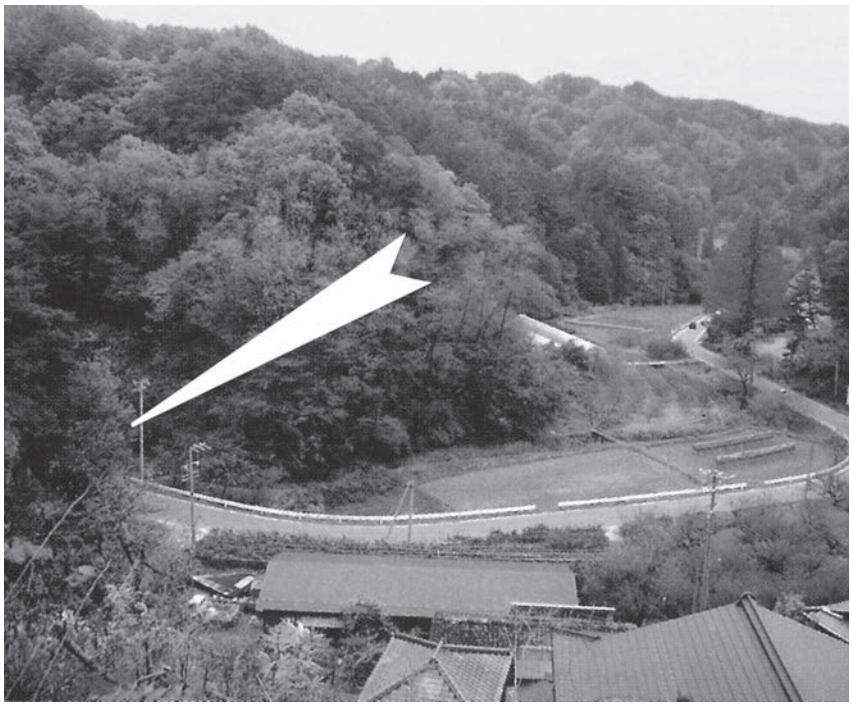
陸軍戦闘機墜落の地

生田塩倉では、終戦の一年前、昭和19年８月に日本の陸軍戦闘機が墜落した場所があります。

操縦者は長崎県出身の澤田熊雄さんで、当時22歳だったことがわかっています。

《任務中の墜落》

戦時中の任務内容が外部に明かされることはないため、なぜこの地の上空を飛行していたのか、はっきりしたことはわかっていません。長崎県にある澤田さんの墓石には「宇都宮航空隊ヨリ戦地志那及台湾へ陸軍戦闘機ニ乗ッテ輸送任務ニツク」と刻まれており、これが唯一の手掛かりとなっています。「輸送」とありますが、物資を運ぶ輸送というよりは、隊員（澤田さん本人）と戦闘機を別の場所へ派遣するという意味の輸送であったと考えられており、移動中の墜落だったことが推測されます。



生田塩倉の戦闘機墜落現場　「ギャーというような異常な金属音」と、「煙を吹いていた」という証言がある

《その場で荼毘に》

墜落した原因も明らかになっていませんが、当時を知る塩倉の人の話では、真っ黒な雷雲が発生していたということで、雷との因果関係があるのかもしれません。

墜落後、松本飛行場の部隊が駆け付けましたが、航空機の残骸を回収したのみで、操縦者の遺体は収容されませんでした。

遺体はその場で警防団によって荼毘に臥され、墜落現場の近くに埋葬されました。

《墓を守る人々》

当時は亡くなった操縦者が、どこの誰かもわからない、見ず知らずの人でした。しかし、地元の皆さんによって墓は守られ続けたのです。特に塩倉の婦人の皆さんは、自分の親兄弟や同じ地域の戦死された方と同様にその死を悼み、供養を続けてきました。そして60年以上にわたってこの墓を守り続けてきました。

このことを知った長崎県の遺族からは、塩倉の皆さんに対し感謝の気持ちが伝えられています。

こちらも松川町の戦争遺跡として、松川町の指定文化財に登録されています。そして、戦争という不幸な出来事だけでなく、塩倉の皆さんの人を思いやる「心」も、平和と人権の学びとして伝えられています。

塩倉に残る澤田さんのお墓

戦後80年 資料館企画展

戦争の時代を生きた人々

～後世に何を伝えていくのか～

松川町資料館では戦後80年に合わせた企画展を開催しています。

戦後80年もたつと、その記憶は風化してしまいます。節目の今年、もう一度戦争の実像を知り、今ある平和を守るために私たちができることを考えていくために、この展示が行われています。

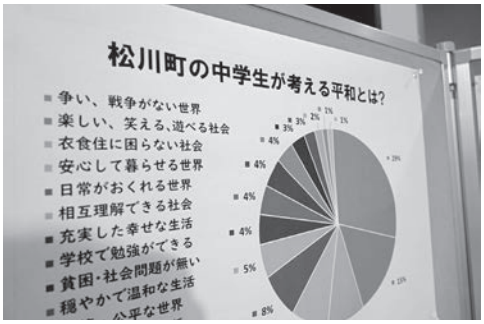
〈主な展示内容〉

- ◆戦時中の生活の様子
- ◆青年団や婦人会の活動
- ◆松川町の戦争遺跡
- ◆戦時中の学校生活や疎開
- ◆満蒙開拓と増野・西山の開拓
- ◆現在の中高生の平和への意識

今回の展示品は資料館に残されたものだけでなく、町民の皆さんから寄せられた戦争にかかわる物も含まれています。

海軍(左)、陸軍(右)の軍服

防空監視哨を再現



松川中学生へのアンケート

展示品にはそれぞれ説明書きもついており、今では考えられない当時の人々の思いや、生活の様子がわかります。

また、本誌2・3面で紹介した町の戦争遺跡についての展示もあり、防空監視哨の模型や、墜落した戦闘機の操縦士、澤田熊雄さんの写真も展示されています。

このほか、戦争を体験した方の生の声を収録した、昭和時代の有線放送の音声番組も会場で放送されています。

今回の展示は、戦争を繰り返さないために、戦争の時代を生きた人々の記憶を様々な視点からたどるものとなっています。正しく後世に伝えていくためにぜひ一度ご覧ください。

松川町資料館(図書館２階)
開館：午前10時～午後５時
定休日：水曜
入館無料

戦後80年企画展は８月31日(日)までの期間限定となっています。

千人針

人権問題を考える　みんなで仲良く

松川中央小学校

なかよしの標語

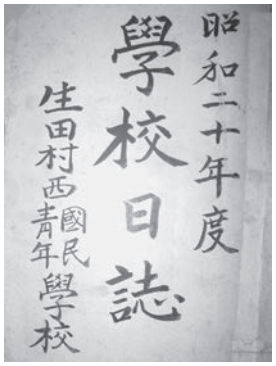
○ともだちが　いてくれるから　たのしい
○ほめあって　みんななかよく　うれしいね
○ケンカなし　みんなであそぶ　たのしいね
○たのしいな　クラスのみんな　元気だな
○なかがいい　みんなたのしい　クラスだな
○ともだちと　たのしくあそぼ　げんきよく
○「あそびましょ」　こえをかけると　うれしいな
○ともだちと　いっしょにわらう　たのしいな
○あかるいな　みんなのえがお　れんさする
○あいさつで　みんながえがお　にっこにこ
○ともだちが　こまっていたら　たすけよう
○ともだちとは　やくそくまもろう　みんなでね
○ゆずり合い　みんな仲良し　いいクラス
○けんかしても　すぐ仲直りして　遊ぼうよ
○学校は　なか良くするとこ　ケンカなし
○みんなでね　いっしょにあそぼう　かくれんぼ
○これどうぞ　一生友の　あかしだよ
○仲ふかめ　元気いっぱい　友達と
○友達と　仲を深めて　親友に
○みんなでね　わくわく楽しく　遊ぼうね
○なんでもさ　はなせるともだち　大切に
○友達と　あいさつかわして　また一日
○にこにこと　笑顔で話す　いい気分
○おたがいに　困ったときには　助け合い
○楽しく助け合い　たくさんあそび　協力し合うのが
　友達のきずな
○世界中　みんな輪になり　助け合い　すべては繋がる
　一筋の道

～資料館だより～　戦後80年企画展「戦争の時代を生きた人々」

資料館では今、戦後80年の企画展として「戦争の時代を生きた人々～後世に何を伝えていくのか～」の展示をしています。いろいろな観点から戦争当時の様子を取り上げ、展示をしていますが、その中から2点紹介したいと思います。

1つ目は、満蒙開拓に関しての資料です。飯田下伊那地区は全国で一番多くの満蒙開拓移民を出した地域です。昭和13年に下伊那町村長会で満蒙開拓推進のために満州への視察にいっています。時の大島村長米山長一郎さんも参加され、その視察時の資料を展示しています。視察のコース、船、鉄道のパンフレット、満州・京城（ソウル）の絵葉書など当時の様子がわかる物が多くあります。また、満州と日本の強い結びつきや満州との友好を演出している様子などもわかります。そして、注目したいのが郡の報告書と米山村長の報告書です。郡の報告書では結論として「国策としての満蒙開拓を推進していく」としていますが、米山村長の報告書には推進の言葉はありません。13年以降、下伊那郡内では村を挙げての分村移民が多く行われましたが、大島村では行われていません。大島村は希望者のみの移民送出だったのです。当時の状況から米山村長も苦悩したのではないでしょうか。結果として大島村出身者では満蒙開拓による大きな混乱・悲惨な結末は少なかったともいえるかもしれません。しかし、現在の松川町内からも多くの人が満州に渡り、多くの辛苦を受け、更に帰国後増野、西山に入植し苦難の連続だったことには違いありません。増野、西山に入植し果樹栽培に活路を見いだし成功していったことには敬意しかありません。

2つ目は生田西国民学校（現在の部奈、福与が校区の学校）の学校日誌です。昭和20年の学校日誌を調べてみました。当時の国民学校は初等科6年、高等科2年の教育課程となっていました。昭和20年4月戦局悪化のため高等科の授業が停止され、高等科の生徒は8月まではほとんどの日、勤労動員されています。初等科の児童も多くの勤労奉仕にかり出されています。校庭もサツマイモ畑となっています。授業日数をみると250日とかなり多く土曜日はもちろん、日曜日まで授業日になっていたり、祝日がほとんどありません。しかし、春秋の農繁休業や寒中休業があったりで現在とはかなり違っています。教育内容など見ると、地区の神社に参拝に行くなど神道の重視がそこここに見られます。



そして、毎月8日には大詔奉戴日がもうけられ、天皇崇拝・国家発揚の教育が成されています。学校日誌の中にも教員の出征や、地区の人の戦死による村葬、空襲警報、縁故による疎開児童の受け入れ等、教育現場に戦争の影が多く見られます。この学校生活は8月15日以降徐々に変わり、昭和22年の教育基本法・学校教育法によって大きく変化し現在の教育制度となっていきます。

満蒙開拓のような悲劇をおこさないため、勉強したくてもできない学校にしないため、私たちは何をしたらいいのでしょうか。戦後80年を迎え戦争の記憶も薄れていく中、正しく戦争の真実を伝えていく事が私たちの義務のように思います。中学生のアンケートにありました。日常の衣食住が不足なく過ごせること、親しい人といろんな話が自由にできること、これが「平和」の最低限の条件のようにも思います。そんな世の中がこれからもずっと続くように努力していきたいものです。

（松川町資料館　中島裕治）

ひと　４月より松川町図書館へ新しくこられたお２人をご紹介します

公共図書館かけ出し中です。よろしくお願いします。

井原八恵子（いはらやえこ）さん

これから暑くなるので涼みがてら気軽に来てください。

工藤　千弘（くどうちひろ）さん

以前は上伊那の図書館でお勤めされていたという工藤さんに、松川町図書館の第一印象をお伺いすると外へ向けての行動をし、地域の方との距離感がとても近い所が特徴的だと話されました。

井原さんは、これまでずっと小学校や中学校の司書をされてきました。

学校では読み手の年令が限られているため、話題の本や、授業で使うものを選んでいたとのことです。このたび保育園や、学校、児童施設、老人福祉施設などに出向いて読み聞かせをすることがほかの図書館に比べ格段に多く、地域の人達に愛されていると感じたそうです。

蔵書が豊富で、古い絵本をたくさん残してあることにも驚いたそうです。

図書館以外にも行政に携わるお仕事を長年されてきた工藤さんですが、「ここでは重点にしていることも違うので心新たに一から取り組んでいきたいと思います」とのことでした。

・・・

～だれでも・どこでも・自分らしく～
男女共同参画週間
啓発イベント開催！

6月23日から29日は、男女共同参画週間です。この週間では「男女共同参画」を推進するために、松川町でも普及啓発イベントを開催しました。

地球と身体にやさしい布ナプキン

今回、このイベントを企画するにあたり「立場」「年齢」「性別」に関係なく、「地域で楽しみながら主体的に活動を展開している方々の価値に触れる」というテーマを設定し、素敵な方々をお招きしました。それがきっかけで、「自分も何かしてみようかな、、」「このひとの活動を応援したい！」など、小さな活動が増えていけば、「素敵な地域」＝「だれでも・どこでも・自分らしく活動していける地域」づくりのきっかけになると思いました。

ぷらっとラジオ

そこで今回は「笑い文字」の中村美幸さん、「地球と身体にやさしい布ナプキン」の熊谷久美さん、「特性を持った方が自分らしく地域で活動していけるためのお手伝い」をしているアンサンブルさん、「だれもがゆるやかにつながりあえる、まつかわぷらっとラジオ」の元木ともみさんたちのご協力により、素敵な空間が育まれていました。

笑い文字

また、小さなお子様連れのご家族が参加しやすいよう、どんぐり文庫さんのクイズコーナー、図書館での缶バッジづくり、資料館バックヤードツアーやスタンプラリーなど、多くの方のご協力により企画することができ、幅広い世代の方が気軽に楽しまれていました。さらに地域で男女共同参画について考えるきっかけづくりとして、「地域でジェンダー平等を実現していくためには」というテーマで、ジャーナリストの浜田敬子さんのオンライン講演会も設定し、選択的に参加できるイベントとなりました。

パンの販売

まだまだ地域によっては男尊女卑などの風土が残っていると感じます。これは「男性が悪い」「女性が悪い」とかではなく、地域や文化によって男性や女性に求める役割や行動が形成されているからではないでしょうか。これらを解決していくには、まだまだ時間がかかると思います。今回参加して下さった方々の小さな活動などが少しずつ積み重なり、そして広がっていくことによって、より良い文化が形成されればと思います。

小学生手作りの看板

ちなみに今回のイベントで使用した各ブースの看板は、小学生が放課後に色塗りをして作ってくれました。素敵ですよね。

「男女共同参画啓発週間」という言葉がなくても「様々な世代が立場や性別に関係なく、主体的に楽しみながら活動していける地域」、そのような地域を皆さんと一緒に創っていくことができればと思います。

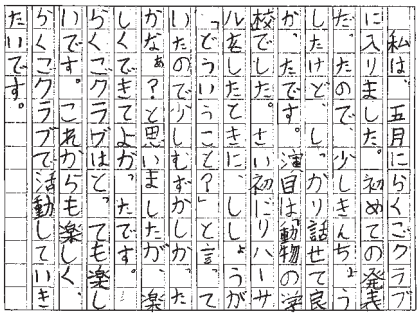
まつかわ寄席

橘家圓十郎
笑組
笑緑亭和香葉
小太郎
肉太郎

７月20日　午後２時開演
えみりあホール

今年も連日のように暑い日が続くなか、第15回のまつかわ寄席が開かれました。

会場の温度を５℃くらい上げてるかもしれない橘家圓十郎さん、笑組さん、松川中央小落語クラブの３名の皆さん。それぞれ個性あふれる噺を聞かせてくださいました。


ネ　めての発表
（笑緑亭和香葉　小林和香葉）

私は、五月にらくごクラブに入りました。「初めての発表」だったので、少しきんちょうしたけど、しっかり話せて良かったです。演目は動物の逆校でした。せい初ごりハーサルをしたときに、ししょうがこういうことを？と言っていたのでりしむずかしかったかなぁ？と思いましたが、楽しくできてよかったです。らくごクラブはとても楽しいです。これからも楽しくらくごクラブで活動していきたいです。

笑緑亭肉太郎

笑緑亭小太郎

笑緑亭和香葉

慣れた様子で高座に上がる圓十郎さんですが、寄席の高座と違ってホントに段を登らなきゃなので、心の中で、気を付けてと祈っています。

噺の内容も世界事情から身のまわりの事まで、おもしろおかしく話されるのですが……古典的な要素は当たり前に入っていて、その中に「薄荷飴」とでてきます。客の来ない暇な店で置き場所を移動させているうちに三角形の角がとれて丸くなったという内容です。何人かに伺ったところ、知らなかったのは20代男性。ハッカって青い？は40才女性。白くて三角形、は70才の私。古典落語も学習しなけりゃかな、とふと思いました。

お二人の声がステレオで聞こえてくるので迫力がすごい笑組さん。ポンポンと話すことばのやりとりが楽しくて、息をするのも忘れるくらい笑って笑って大笑いです。

冷房の効いたホールで心ゆくまで笑いに充たされた時間となりました。

笑組

ぺんぺん草

ここのところ、猛暑続きで窓を閉めきり、エアコンの効いた部屋で過ごすことが多くなっていた。だが今日は、割と気温もあがらず、午後３時過ぎには窓を開け、長椅子に腰かけながらスマホを眺めている。丁度良い風が時折吹き込む中、ＳＮＳの動画を見る。そこには、普段一緒に過ごせない恋人や家族がサプライズで待ち伏せし、再会を喜ぶシーンが流れていた。米国の兵士のような格好をした父親の姿に一瞬固まり、手に持っていた物を放り投げダッシュで抱きつく少女。次に流れる動画には、棺の上に覆い被さるように泣く少女。その次の、ある女性の大切にしている物の紹介では、特攻隊であった婚約者からの手紙。そこには立派な別れの言葉と「ちょっぴり欲を言うなれば」と読みたい本、観たい絵、女性の名前が記されていた。白黒の、とてもお若い姿の写真と共に。

顔を上げ外をみると、きれいに刈られた草と、大きく育った柿の木の葉っぱが風に揺さぶられ、かっこうがただ鳴いていた。

（大澤房枝）

公民館報
「まつかわ」
第741号
令和７年８月15日
発行所　松川町公民館
責任者　山崎　隆
編集人　公民館編集部
Tel 36-2622
e-mail: c.kouminkan@town.matsukawa.lg.jp
飯田市上郷黒田121
印刷所　龍共印刷株式会社
再生紙を使用しています。